

## 日経平均株価がTOPIXに圧勝！今後も続くのか？

## ～語られざる投資の真実①～

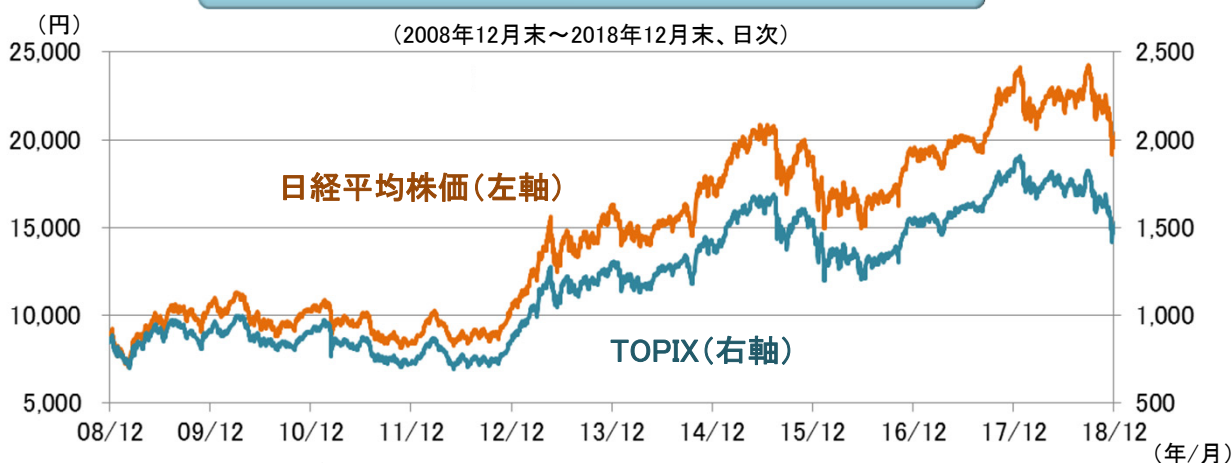
「投資INSIDE-OUT」～語られざる投資の真実～では、マーケットでは知られているもののハッキリとは語られない、でも投資をする上で大切なことを考えていきます。



## 日経平均株価とTOPIXの10年間リターン差は52%！

過去10年間(2009～2018年)の日経平均株価のリターンは+225.9%、TOPIX(東証株価指数)は+173.9%です。日経平均株価は10年間の累積リターンでTOPIXを+52%アウトパフォーマンス(上回る)したことになります。

## 日経平均株価とTOPIXの推移



また、**両指数の相対的な強さを示す「NT倍率(日経平均株価をTOPIXで割って算出した数値)」は、上昇を続けており、現在、日経平均株価が優勢である**ということを表しています。NT倍率は2000年代前半は10倍程度でしたが、アベノミクスが本格化した2012年以降は12倍台に切り上がりました。**2018年12月には一時13.5倍を超えるなど30年ぶりの高水準**にあります。

日経平均株価はもともと製造業など輸出関連銘柄のウェイトが大きく、アベノミクスによる円安進行がここ数年のNT倍率の上昇に寄与しているようです。また、日銀によるETF(株価連動型上場投資信託)購入の影響で、一部の「株価水準の高い」銘柄が品薄状態となっていることも、NT倍率を高止まりさせている模様です。

さて、2019年のNT倍率はどうなるでしょうか？過去30年の水準感からいずれば低下するとの見方がある一方、日銀のETF購入が続く限り、NT倍率は下がりづらいという声も多く聞かれます。

指数連動型の運用においても、どの指数を選択するかによって収益率が大きく違ってくることは頭に入れておきたいところです。(超乾)



#### 【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。